こしたトラブルで、 誘導路で燃料漏れを起

日

めた。

本格的な原因調査を進

(ナは10億分の

ボンナノチューブの大半 用に市販されているカー

はチュー

ブが不規則に並

び東状になっており、

岡山大大学院•内田准教授 しく網目状に結合し筒状 ブは炭素原子が規則正 単層カーボンナノチュ は100万分の1) 1 数十
お
が
。
軽
い
上
、 長さは数容が

る。 に高めることに成功。 度を上げる添加剤を開発してい らのグループは、 内田哲也准教授 目動車部品にも応用できることか 殊加工し、 単層カー 岡山大大学院自然科学研究科の (素材の伸びにくざ)を約2倍 合成樹脂フィルムでは、 プラスチックなどの強 ボンナノチューブを特 (高分子材料学) 極小の炭素物質 精密機器、



分散 切断

工程で、8本程度のチュ

独自の精製、

結晶化

ブを規則正しく並べる

結晶化

照射することで、

チュ

ブの束を1本ずつに切

市販品に硝酸、 層高まると仮定。

超音波を約10時間

列に並べると弾性率が

カーボンナノチューブから

弾性 から 部

になった物質で、

直径は

敵するのが特長という。 率はダイヤモンドにも匹

内田准教授らは、

研究

ことに成功した。

合成樹

早期の実用化を目指す。

(内田圭助)

単層カーボンナノチューブ

倍になった。 たところ、 添加してフィルムを作っ

0・1%を

弾性率が約2

用化させたい 生しない。企業などと共 却しても有毒なガスは発 みで構成されており、 を探っていく。 高分子材料へ などを調べ、 スチック容器などの原料 分析するとともに、プラ ・ポリエチレンなど他の 内田准教授は 耐熱性などを詳しく 熱伝導性や導電 新たな用途 の添加効果 早期に実 「炭素の

燃料が、 ンクに過剰に流入した 左主翼内の燃料タ 振動や遠心力一系統を制御するコンピ る 同社はバルブや燃料

ン国際空港を
解陸前に 詳しく点検するなど、 生

日

岡山市北区新屋敷町 1 - 1 - 18

山陽新聞朝刊 平成25年1月1 社会面30 日

脂の一種・ポリビニルア